

生活科における情報の交流活動を促す学習環境の開発と その実践に関する研究

授業実践者 浦田 武

1 学年

小学校2年生

2 単元名

「町のたんけん」(全18時間)

3 授業の構想

3.1 授業の考え方

従来、生活科の学習で多く見かけられる学習の流れは、「めあてをたてる」→「活動や体験を行う」→「イベントや発表を行う」といったような流れで学習が進んでいる。しかしこのような流れでは、活動や体験のなかで学習を深めることは難しい。教室の中で、椅子に座った状態での学習であれば、つまづいている児童やもっと詳しく調べた方がよいと考えられる児童へ個別の支援も行いやす。しかし、特に学校外での活動となると児童は広範囲にわたって活動を行うため、個別に支援することが難しく、学習に深まりがないままイベントや発表などを行うことになってしまう。さらに、活動や体験を通してわかったことや思ったことを学習の最後にだけ交流した場合、疑問に思ったことや興味を持ったことがあっても、それ以上詳しく調べたり、仲間の意見や行動を自分の学習に役立てていけるような学習にはつながらずはいかない。

そこで、本研究には、図 3.1.1 に示すように、活動と活動の間に情報の交流活動を位置づけた学習の流れを考える。このような流れにすることにより、はじめの活動で、つまづいている児童やもっと詳しく調べた方がよいと考えられる児童へ、次の活動のために個別に支援を行うことができ、さらに、情報の交流活動で疑問に思ったことや興味を持ったことがあった場合、その後の活動で今以上に詳しく調べたり、仲間の意見や行動を自分の学習に役立てていけるようになると思う。

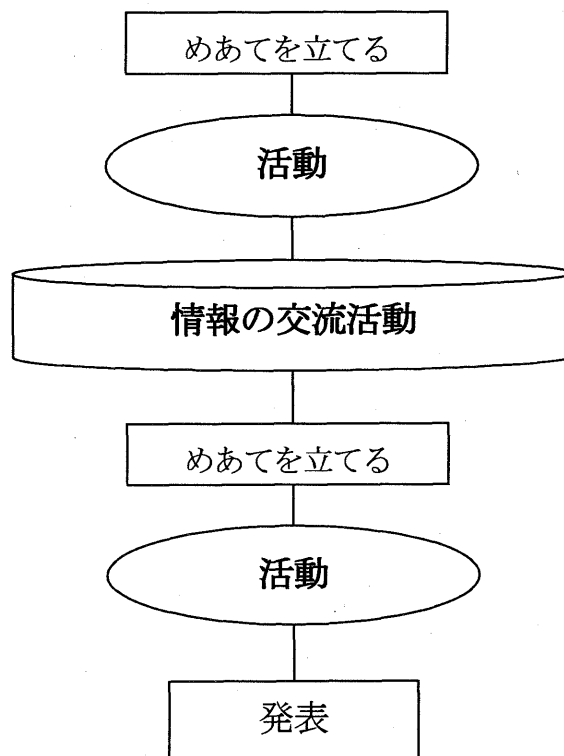


図 3.1.1 学習の流れ

3.2 システムの利用

情報の交流活動を行わせるための学習環境として、Web上で動作するデータベースシステムを開発する。本研究の対象が低学年ということもあり、すべてを電子化することになると、時間的・作業的にも逆に負荷がかかると考えられるため、紙によるメモやカードとの併用で、学習を進めていくことにする。システムの利用について図3.2.1に示す。

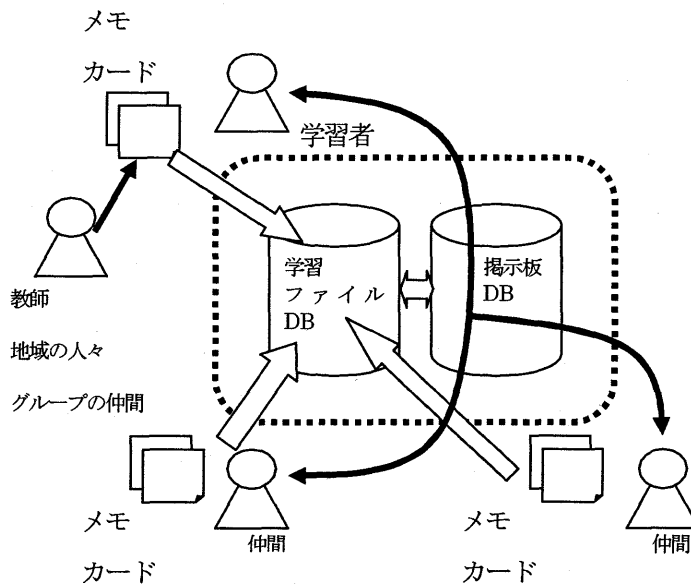


図 3.2.1 システムの利用

また、自分の考えを明確にし発言するための手助けとなる、交流活動支援の言葉を用意する。これは、話し合いを円滑に進めるためのものである。その交流活動支援の言葉を学習ファイルの画面上部に位置づけ、この言葉をクリックすることにより言葉ごとの掲示板の入力画面があらわれるように工夫する。さらに別画面で掲示板を表示したり、掲示板の画面上部に内容の入力フィールドを位置づけ、内容を入力した後で名前などを入力できるようにフィールドの位置を工夫したりすることにより、学習ファイルに書かれた仲間の情報を見ながら、思ったことをすぐに入力できるようにする。学習ファイルの画面上部に位置づけた交流活動支援の言葉と別画面で表示された掲示板入力画面を図3.2.2に示す。なお、文字の入力については、マウスだけで文字入力ができるクリックパレットを使用する。

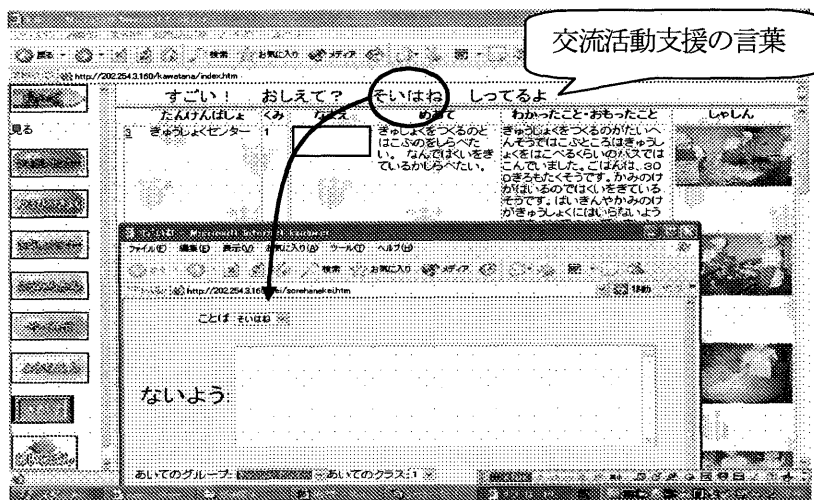


図 3.2.2 交流活動支援の言葉と別画面で表示された掲示板入力画面

3. 3 単元の目標

- ・地域の人々に進んで質問したり，調べたりすることができる。
(生活への関心・意欲・態度)
- ・活動を通して得られた情報を仲間にわかりやすく表現したり，仲間に質問したり答えたりすることができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- ・自分とかかわった人々や場所の様子に気づくことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

3. 4 授業の流れと各次のねらい

実践授業は図 3.4.1 に示すように，第 1 次（めあてをたてる段階），第 2 次（探検に行き，システムを利用して仲間と情報の交流を行う段階），第 3 次（詳しく調べる段階），第 4 次（活動を振り返ってまとめる段階）の 4 段階で取り組む。

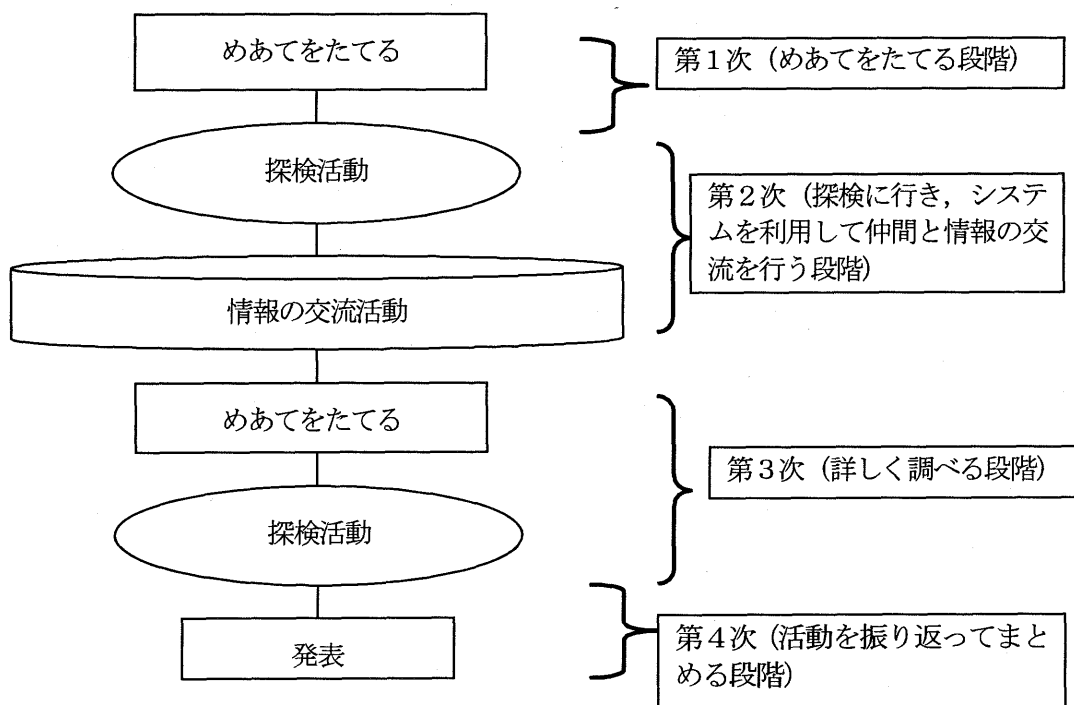


図 3.4.1 学習の流れと各次の関係

各次のねらいを表 3.4.1 に示す。

1 次では，自分たちの町について，自分がよく行くところや好きな場所，建物などを自由に発表したり，発表されたものを地図で確認したり，校舎の屋上から町を眺めたりしながら，自分たちの住んでいる町に興味・関心をもつ。その後，探検に行きたい場所を決定し，探検のめあてを立て，探検メモ(たんけんパスポート)に記入する。

2 次では，実際に探検に行き，分かったことや思ったことなどを探検メモ (たんけんパスポー

ト) や探検カード1にまとめ、システムに入力していく。その後、システムの掲示板を使って仲間との情報の交流を行い、質問したり答えたりする。

3次では、情報の交流活動を通して、疑問に思ったことやもっと詳しく調べたいことなどをもとにめあてを立て、もう一度探検に行き、分かったことや思ったことを探検カード2にまとめシステムに入力する。

4次では、学習を振り返り、探検で分かったことや思ったことをわかりやすく自分達なりの方法で表現し発表する。その後、単元全体を振り返って感想などを書く。

表 3.4.1 各次のねらい

次	ね ら い
第1次 (めあてをたてる段階) 2時間	自分たちの町に興味・関心をもち、探検のめあてを立てることができる。
第2次 (探検に行き、システムを利用して情報の交流を行う段階) 9時間	探検に行き、分かったことや思ったことをまとめ、仲間に質問したり、答えたりすることができる。
第3次 (詳しく調べる段階) 4時間	詳しく調べるためのめあてをたて、さらに詳しく調べることができる。
第4次 (活動を振り返ってまとめる段階) 3時間	探検して分かったことや思ったことをわかりやすく発表することができる。

4 授業の経過

4. 1 第1次の経過 「めあてをたてる段階」(2時間)

自分たちの町に興味・関心をもち、探検のめあてを立てることができることをねらいとし、第1次の授業を行った。以下にその経過を示す。

表 4.1.1 第1次「めあてをたてる段階」の経過

学 習 活 動	教師の支援
1. 川棚の町について知っていることを紹介し合った。	・だいたい場所がわかるように町の地図を準備したり、校舎の屋上から町を眺めたりさせ、自分たちの町に興味・関心をもちさせた。
2. 町探検の計画を話し合った。	・探検できる場所について教師の方からも紹介をおこなった。 ・ビデオなどで探検場所のイメージをつかませ、めあてを決めるときの参考にさせた。 ・めあてがたてられない児童については、個別に支

<p>3. 交流活動支援のための言葉について話し合った。</p>	<p>援を行った。 ・普段使っている言葉をもとに、交流活動支援のための言葉を考えさせた。</p>
----------------------------------	------------------------------------------------------

まず、自分たちが住んでいる川棚の町について、自分がよく行くところや好きな場所、建物などを紹介させた。子ども達は、たくさんの場所を紹介したり、また仲間の発表を聞きながら「そこ知ってる」とか「行ったことある」などと反応を示したりしていた。その後、紹介された場所を地図で確かめたり、学校の屋上から眺めたりさせた。児童に、「これから町の探検に行く計画を立てるよ。」という「やったあ」と声に出し喜んでいる姿が見られた。

次に、教室で町の探検についての計画を話し合った。まず児童から探検に行きたい場所を発表させた。その後、教師の方からも発表された場所以外にも探検できる場所の紹介を行った。

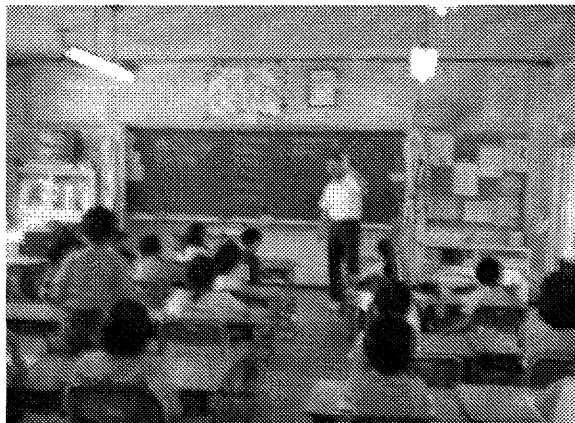


写真1 町探検の計画を話し合っている様子

探検グループができた後、次は探検のめあてを決める活動に入った。探検場所に対してまずイメージをつかませ、めあてを立てるときの参考にさせるため、

事前にいくつかの場所をビデオで撮影しておいたものの中から、児童が希望した探検場所の様子が撮影されているビデオを見せた。探検のめあては、資料に添付している「たんけんパスポート」に記入させた。この際、めあてが立てられない児童が3名いたので、言葉かけによる支援を行いながらめあてを考えさせ、すべての児童がめあてを立てることができた。

その次に、探検に必要なグッズを作る予定であったが、時間の都合で、児童一人一人に画用紙を渡し、家庭でワッペンや名刺など自分が作りたいものを作らせることにした。

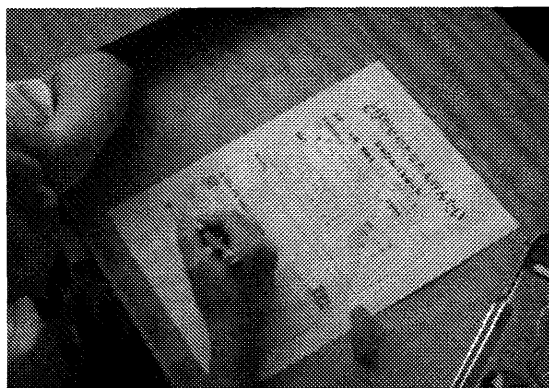


写真2 探検メモ（たんけんパスポート）にめあてを記入している様子

次に、交流活動支援のための言葉を児童と協議した。その結果、表 4.1.2 に示しているように、「質問」と「応答」「賞賛」について、言葉は同じであったが、

「情報の提供」については1組と2組で言葉が異なる結果となった。そこで、朝自習の時間、生活科室に児童を集めて話し合いを行った。その結果、Y.Tさんから「しってるばいより、しってるよのほうが優しく教えている感じがするので、しってるよのほうがいい。」という意見が出され、

その後、多くの児童が「しってるよ」の方がいいという考えとなり、「しってるよ」に決定した。

表 4.1.2 クラスごとの話し合いによる交流活動支援のための言葉

	1組	2組
①質問	おしえて	おしえて
②応答	そいはね	そいはね
③賞賛	すごい!	すごい
④情報の提供	しってるよ	しっとるばい

さらに、児童なりによりわかりやすくしようとする工夫が見られ、「おしえて」にも「？」のマークを付けた方がわかりやすいということになり、以下のように決定した。

- ①質問・・・「おしえて？」
- ②応答・・・「そいはね」
- ③賞賛・・・「すごい！」
- ④情報の提供・・・「しってるよ」

4. 2 第2次の経過「探検に行き、システムを利用して情報の交流を行う段階」(9時間)

探検に行き、分かったことごとや思ったことをまとめ、仲間に質問したり、答えたりすることができることをねらいとし、第2次の授業を行った。以下にその経過を示す。

表 4.2.1 第2次「探検に行き、システムを利用して情報の交流を行う段階」の経過

学 習 活 動	教師の支援
4. 町の探検を行った。	・道路の歩き方や町の人への接し方や緊急の場合の連絡の仕方などを確認した。
5. 探検して気づいたことや思ったことを、まず個人でまとめ、その後グループでの話し合った。	・気づいたり、思ったりしたことは、探検メモに簡単に記入したり、写真を撮ったりするように助言を行った。 ・見つけるだけでなく、不思議に思ったことは尋ねるなど、町の人たちにインタビューするとよいことを助言した。
6. 探検カードをもとに、コンピュータに入力した。	・なかなか情報化できない児童については個別に支援を行った。
7. 他のクラスの入力された情報を見て、思ったことを入力したり、質問に答えたりした。	・仲間との話し合いを通して、自分の情報に付加したり修正したりするよう助言した。 ・自分がまとめた探検カードをもとに入力する方法が理解できるように、プロジェクターを活用しながら具体的に説明を行った。

	・2人組で、疑問に思ったことや自分が知っていることなどを入力させた。
--	------------------------------------

児童は前時で決めたグループに分かれ、道路の歩き方や町の人への接し方や緊急の場合の連絡の仕方などを確認して、それぞれの探検場所へ行った。児童が探検に行った場所は、生きがいセンター、給食センター、役場、郵便局、公民館、幼稚園の6カ所である。担任や校長、教頭が協力してくれただけではなく、保護者も交差点に立って安全に道路を横断したり歩いたりしているかどうか確認したり指導したりしてくれた。



写真3 探検場所に向かっている児童の様子

探検先では丁寧に説明をしてもらったり、いろいろな施設や設備について見学させてもらったりした。また、児童はカメラで撮影したり、分からないことがあれば質問したり、聞いたことはメモに記入したりしていた。児童が記入した探検メモ（たんけんパスポート）の記入の様子をまとめたものが表4.2.2である。

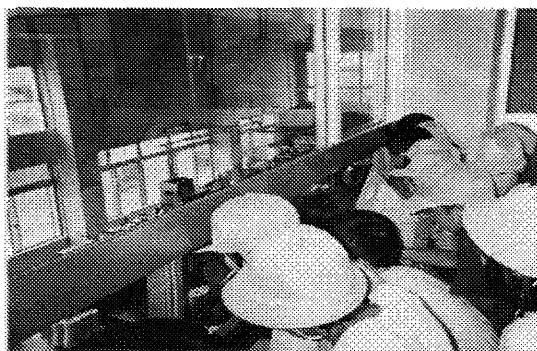


写真4 給食センターの中を探検している児童の様子

探検メモ（たんけんパスポート）に何も記入していない児童は1人もいなかった。78名中49名の児童が見たこと・聞いたこと・思ったことすべて記入されていたが、中には見たこと・思ったことは記入されているが聞いたことが記入されていない児童、見たこと思ったことは記入されているが思ったことが記入されていない児童、さらに見たことだけ記入された児童も見受けられた。

表4.2.2 探検メモ(たんけんパスポート)の記入の様子

内 容	78名中的人数(人)
見たこと・聞いたこと・思ったことすべて記入	49
見たこと・思ったことの記入	17
見たこと・聞いたことの記入	5
見たことだけの記入	7
無記入	0

特に、見たことだけしか記入されていない児童については、探検カード1を作成する際には、

